

攬勝亭は歴史の証人です

中世土豪の館跡



御薬園、可月亭と並んで、会津三庭園の一つとされる攬勝亭は、戦国時代に越後上杉氏の一族、三条長尾氏が館を構えた頃からの歴史あるお庭です。



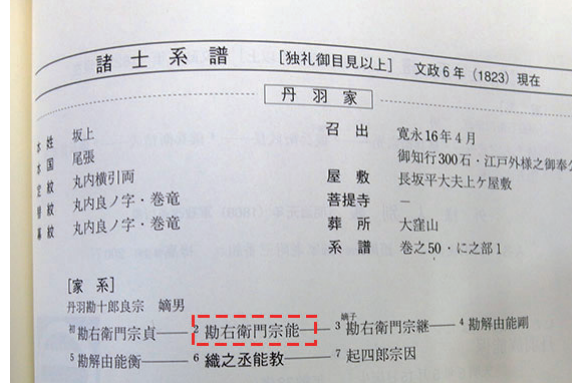
庭内には、長尾氏が来る前に、白鬚の大水という大洪水があったことを伝える石碑もあります。

攬勝亭の敷地は、そっくりそのまま**不整形台形**という、中世の在地豪族の居館の典型を示しています。規模も、方一町の四分の一という典型的な大きさです。図の黄色の部分に、現在でも土塁の痕跡が残っています。

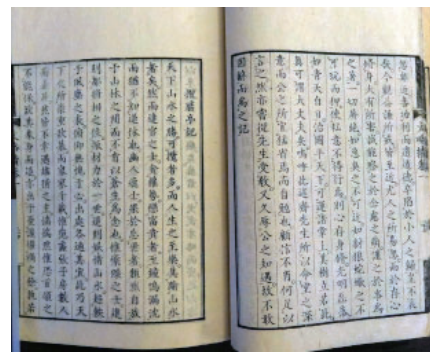
会津藩との深い関係

江戸時代になると、保科正之公がお立ち寄りになり「攬勝亭」と命名されました。正之公の揮毫と伝えられる銘板も最近実在が判明しました。

三代松平正容公が、立派なお庭に改築されました。改築の監督に当たった丹羽勘右衛門宗能は「会津藩諸士系譜」や「家世実紀」で実在が確認でき、改築が伝承の元禄13年頃だとすると、当時側用人でした。



江戸中期まで歴代藩主は鳥狩りを大川の河原でするのが恒例でしたが、その際の休息所に使われたと言われています。



「攬勝亭記」
長齋文略続所収

江戸時代後期

樺太出兵、江戸湾防備に功績のあった名家老 丹羽能教が晩年の隠居所とすることを許されました。

小田山にある能教の墓石には「致仕後置別墅於城西柳原曰攬勝亭」と刻んであります。

その事が、郡山の安積国造神社出身の大学者安積良斎が書いた本にもはっきりと記されています。

攬勝亭(らんしょうてい)を守る会
965-0042 会津若松市大町 1-2-9
会長 高瀬 淳
ホームページ: <http://www17.plala.or.jp/ransyoutei/>
Tel: 0242-22-7330
Fax: 0242-25-3977
E-mail: ransyoutei@amail.plala.or.jp



戊辰戦争

朱雀・青龍隊の陣屋となり、薩摩十八番隊に占領後焼き討ちされました。最近会津図書館蔵の「己巳年明治見聞誌」の読解が進み判明した事実です。

当時の朱雀隊士 渡辺東郊の描いた攬勝亭の画が残っています。画には「元會津公別園」とはっきり書かれています。



また、画に添えられた漢詩は、奥羽越列藩同盟の盟約書を起草した仙台藩明倫校学頭 大槻磐溪の作で、江戸時代弘化年間に出版された本に載っている事が判明しています。

特徴ある碑が今も残り、当時の門はここにあったことが判ります。

攬勝亭十景

攬勝亭の重要な特色に十景詩の存在があります。景勝を選んだ十景も八景も中国が起源の文化ですが、攬勝亭の少し前に、水戸光圀が小石川の後樂園に杭州西湖を模した庭を造ります。西湖と作庭が結びつき、以後次第に流行します。十景は西湖が起源なのですが、庭園に十景の漢詩がセットになった作例は攬勝亭外に今のところ見当たりません。

時代ごとに、色々な作者が十景詩を詠んでいます。詠題だけは変わらず、正容公が出されたものが継承されています。

キーワードは再生

近年相次いで大災害や予期せぬ伝染病被害に見舞われたました。世の中の価値観が大きく変わろうとしています。物を再生することで人の心も癒やす持続可能社会が望まれています。

五百年近い歴史を持つお庭を残し、荒れた状態から少しずつ再生していく過程こそ、人々の共感を得られる事業となるでしょう。

昭和

戦前の美しく整備された攬勝亭。



向かって左の離れが、与謝野晶子が宿泊した部屋で現存しています

ご覧のように、現状はかなり荒れた状態です。でも、今回、古文書や墓碑銘などから攬勝亭が会津藩の歴史と深い関わりがあった証拠が次々と出て来ています。本物は壊したら終わり、資料や図面で残しても感動は出来ません。会津若松市が取得することで名園が保存でき、町の緑地となり、観光客に歴史を学んで貰える場所となります。専門家にしっかり調査をして貰い、維持管理と活用には市と民間の力を合わせて取り組みましょう。